

表彰区分	マロニエ建築賞	
作品名	下今市駅舎・SL機関庫～SL復活運転 PROJECT～	
所在地	日光市今市 1110	
用途	(下今市駅舎)駅舎 (SL機関庫)列車格納庫	
建物概要	構造：(下今市駅舎)木造 (SL機関庫)鉄骨造	敷地面積：(下今市駅舎)898.67 m <sup>2</sup> (SL機関庫)10,793.73 m <sup>2</sup>
	階数：(下今市駅舎)地上1階 (SL機関庫)地上1階	延べ面積：(下今市駅舎)329.01 m <sup>2</sup> (SL機関庫)527.27 m <sup>2</sup>
建築主	東京都墨田区押上 1-1-2 東武鉄道株式会社	
設計者	東京都新宿区四谷三栄町 6-17 パークサイド四谷 401 株式会社オー・エヌ・オー大野設計	
施工者	栃木県日光市大桑町 138 東武建設株式会社	

講 評

東武鉄道下今市駅における近代鉄道産業遺産を活かした空間整備である。鬼怒川温泉駅までの SL 復活運転プロジェクトに合わせ、駅舎のリニューアルと SL 機関庫の整備がなされた。木質を活かした駅舎では、駅前広場に対して全面に縁側状のベンチが設けられ、居心地のよいパブリックスペースを提供している。煉瓦タイルの仕上げによる SL 機関庫、新たに移設された転車台の広場、線路敷を意識した外構など、群としての駅空間の整備が高く評価された。昭和レトロを意識したデザインは、ともすると表層的にテーマパーク化する懸念もあるが、本計画は、鉄道事業の歴史に基づき、沿線の鉄道構築物の国登録有形文化財化や、構内の旧跨線橋のギャラリー化といった、周辺環境も含めて、地に足の着いた建物群としての駅空間の整備と言える。駅の賑わいの市街地への波及や、沿線の鉄道遺産の継続的な保存活用など、今後の展開にも期待したい。

